

## 一度は見ておきたい重要文化財/石塔シリーズ

奈良の旅編  
その3

今回は「一度は見ておきたい重要文化財/石塔シリーズ・奈良の旅編 その3」と題し、歴史的価値、学術的価値の高い石仏や石塔をご紹介します、その魅力に迫っていきます。

観光情報も添えていますので、ぜひ実際に足を運んでいただき、その雰囲気を感じ、目で愉しみ、心で歴史に触れてみてはいかがでしょうか？

## 西大寺奥の院五輪塔(奈良県奈良市西大寺野神町)

西大寺(さいだいじ)は、奈良県奈良市西大寺にある真言律宗の総本山の寺院です。釈迦如来を本尊とし、奈良時代に孝謙上皇(764年に再び即位して称徳天皇)の発願により、僧・常騰(じょうとう)を開山(初代住職)として建立されました。



南都七大寺の1つに数えられ、奈良時代には壮大な伽藍を誇りましたが、平安時代に一時衰退します。この西大寺を鎌倉時代に復興したのが、叡尊上人(えいしょうにん/興正菩薩 こうしょうぼさつ)であり、その叡尊上人の御廟所(お墓)であるのが、西大寺奥の院(法界躰性院/ほうかいたいしょういん)五輪塔です。興正菩薩叡尊五輪塔とも呼ばれます。

## 五輪塔とは

五輪塔は平安時代に誕生したといわれる墓石デザインです。上段から「空輪」「風輪」「火輪」「水輪」「地輪」と呼ばれる墓石があり、それぞれ自然の五大元素を表しています。

「五輪塔」を建てると、亡くなった人はみな、最高の位と最高の世界へゆけるとされ、今日もなお、宗派を問わず「ありがたい最高のお墓」とされています。

五輪塔の他、お墓のデザインに関する記事がございますので、ぜひご覧ください。

◆お墓のデザインはどんなものがある？



## 西大寺奥の院五輪塔の特徴

西大寺奥の院五輪塔は花崗岩製で、総高342cm。一辺13.7mの二重基壇の中央に安置される日本最大級の石塔です。五輪塔本体だけで約14トンもの石材を使用しています。

西大寺の本堂や四王堂をはじめとする主要な建物がならぶ境内地から、北西に徒歩10分ほど離れた、郊外の町並みの中にひっそりと佇んでいます。

五輪塔は、地輪から空輪に向かうにつれ、寸法が少しずつ小さく調整されているのが特徴で、その絶妙なバランスから生み出される美しさは、見る人を穏やかな気持ちにさせます。

厳かでどっしりとした重量感の中に精緻な優美さが見られ、現在の石工の中でも見本とされる五輪塔です。

## 歴史

叡尊上人は、正応3年(1290年)8月25日に90歳で遷化(死去)され、西大寺の北西にある森林で荼毘に付されました。その地に営まれた御廟所が「西大寺奥の院」です。五輪塔は弟子たちによって建てられたと言

われ、その大きさは、師への畏敬の想いを表したもののなのかもしれません。

なお、平成8年3月22日に奈良県の重要文化財に指定されました。



## 周辺の観光情報

毎年6月～8月になると西大寺では本堂前の東塔跡の周囲が100鉢の蓮で彩られ、まるで極楽浄土をイメージさせるかのような荘厳な光景を見ることができます。

また、西大寺のある奈良市西部エリア「西の京」(かつて平城京のメインストリート「朱雀大路」の西側に位置)には、西大寺の他にも蓮で有名な寺院があります。それは、喜光寺、唐招提寺、薬師寺です。各寺院の境内にも無数の蓮の鉢が置かれ、初夏から夏の間にかけて様々な蓮の花が咲き誇ります。

### 交通アクセス

〈鉄道〉近鉄大和西大寺駅から北西に徒歩10分

〈自動車〉第二阪奈道路「宝来IC」から国道308号経由で約6分  
京奈和自動車道「山田川IC」から  
学研都市連絡道路/国道163号で約17分



## まとめ

建てるに亡くなった人はみな最高の位と最高の世界へ往けるとされ、今日まで宗派を問わず、「ありがたい最高のお墓」とされている「五輪塔」。

その大きさには、時に故人を想う気持ちが反映され、また、兵火や困難がある

うとも、「次世代に受け継いでいこう」という想いが繋がることで、今も当時の面影を残しています。故人を仏様とし、極楽往生を叶える五輪塔。

今回ご紹介したスポットにぜひ一度訪れて、体感してみてください。